

研究主題

生徒指導の充実を図るための児童・生徒理解はどのように図るか

1 生徒指導の現状と実践事項

現状

学校は比較的落ち着いている。特に、問題行動の点での指導を必要とする生徒はいない。(昨年度は、他校との繋がりを心配することがあったが、現在はそのような兆候はない) 時間を守るということの大切さを理解していない生徒がいる。

遅刻者0の日がない。また、校歌が鳴っていても急ごうとしない。せかされ、注意されてから急ぎ始める生徒が多い。

チャイム着席は改善されつつある。

あいさつが不十分(特に朝。声が出ない生徒が多い。)

不登校、不登校傾向の生徒が多い。

周囲の生徒との人間関係に対する不安

実践事項

週1回の生徒指導部会における、各学年の問題行動・不登校生徒等の情報交換と共通理解、共通実践事項(具体的方針)の確認。

遅刻指導の実施。生徒指導部と生徒会生活部長・副部長によるチェック活動。

1日のスタートをスムーズにきるため

定期的に服装点検を行い、生徒同士で意識を高めさせる。

2 生徒指導上の課題と今後の対策

生徒指導上の課題	今後の対策
<p>不登校・不登校傾向生徒が多い。 (各学年2～3名の不登校又は不登校傾向の生徒がいる)</p> <p>些細なことが原因で、仲間はずれにしたり、トラブルを起こしたりすることが多い。</p> <p>不要物の持ち込みがある。 (昨年度...菓子類、雑誌類) 自分たちの価値判断で行動してしまう。</p>	<p>特別支援チームの活動を具体化し、これまで以上の活性化を図る。</p> <p>これまでの固定化された人間関係を見直させる。 納得するまで粘り強く指導していく。 具体例を挙げて、何が正しく、何がいけないのか、そしてそれはなぜなのかを指導する。その中で、生徒の規範意識をより高めていく。</p>

3 小・中連携による共同実践提案

遅刻指導.....できれば同じ時間でやっていければ中学校での指導も軽減されるように思う。

不登校対策...いじめ問題と同様に、これまでの積み上げられた人間関係が原因になっているものも多い。情報の共有化によって改善されることもあるのではないか。